



思斉のしせい

大阪府立思斉支援学校 支援室だより

第46号

令和3年9月3日

支援室

「自閉症スペクトラム」をテーマにした連載の3回目です。今回は、「自閉症スペクトラム」の特徴がみられる生徒との授業実践の中で得た気づきについて紹介します。

ある高等部の生徒Cさんは、普段の言動から自閉症スペクトラムの特徴がみられていました。電車の時刻表が好きで、いろいろな駅の時刻表を持ち歩き、駅名や時刻を紙にたくさん書き写していました。Cさんの様子をイメージしていただくために、第44号にまとめられている特徴から、あてはまると思われる項目を挙げてみます。

対人性の障がい

- ・他者との関心の共有が苦手。
- ・他人の感情、気持ちの理解が難しい。
- ・相手の立場でものを考えることができない。
- ・共感性が弱い。
- ・場の雰囲気が読み取れない。

言語コミュニケーション障がい

- ・格式ばった字義どおりの言語。
- ・冗談、皮肉が分からない。
- ・言葉の「やりとり」が困難で一方的。

想像力の障がいと特異的な行動

- ・一つの興味、事柄に関心が限定。
- ・おもちゃを一例に並べる。
- ・行動にこだわりがある。

つぎに、授業についてごく簡単にまとめます。教科は音楽で、「箏を演奏しよう」というテーマで取り組みました。箏は13本の弦からなる撥弦楽器です。爪をつけて、おもに右手3本の指（親指・中指・人差し指）を使って演奏します。ただし、爪をつけずに指で弾いても、豊かな音色を奏で、楽しむことのできる楽器です。教材とした楽曲は、日本古謡の「さくらさくら」です。多くの人が聴いたことのある親しみやすい楽曲かと思われます。

通常の箏は、13本の弦が張られているだけで印などはつけられていませんが、教育用の箏では、漢数字で「一、二、三…」と記されたシールが貼られているものもあります。（写真 本校で使用している箏）

本来、生田流箏曲の楽譜は縦譜を使用しますが、この授業では下の図のような、五線譜に漢数字を入れ込んだ楽譜を用いました。

授業は、音源を聴いて曲の雰囲気をつかみ、メロディーを歌詞や漢数字で歌うところからはじめました。そして、楽器の演奏に入ります。生徒は親指だけに爪をつけて練習に取り組みました。



（写真）



（図）

Cさんの授業での様子に移ります。Cさんが弾く番になると、ホワイトボードに掲示された楽譜と、手元の楽器の漢数字を照らし合わせるように交互に見ながら、数字をロずさんで弾いています。そして、すらすらとメロディーを最後まで演奏することができたのでした。漢数字の楽譜が演奏の助けとなり、演奏できたという自信

につながりました。

今回は、意図せずに生まれた相乗効果でしたが、特徴を活かすという視点での教材研究や授業の展開が大切だと改めて気づかされる経験でした。第45号のまとめにもありましたが、「子どもたちの様子をよく観察すること」や「色々な可能性を考えて対応すること」を大切にしていきたいものですね。